日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

長泉麗峰山の会 (sine１９９４)

第２９期・０６巻　　２０２３年　　９月号　　NO. 265

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すそのほう

Susono Reihou Alpine Club

風の記憶

山行 NO. 2029
2023/08/05
八方尾根～唐松岳

2023 年度・09 月度例会資料　　2023/09/02

１．報告・当面の予定

07/07（金）個＝霧ヶ峰・車山　後藤、伊藤、斎藤、長島・・・快晴涼しい、キスゲは、まあまあ
11（火）個＝富士山・須走八合　　加藤、星＋ほか１・・・三週間ぶりの山、サイコーだった
15（土）会＝御坂・黒岳　後藤、伊藤、山田、長島・・・旧御坂峠越え、藤野木までバス利用
15（土）個＝霧ヶ峰・車山・・・北村＋ほか２
16（日）個＝乗鞍岳・・・北村＋ほか２
16（日）～17（月）個＝富士山・お中道　　加藤、星＋ほか１・・・水ヶ塚発 6 時のバスは 7 時発。五合目発８時。長田小屋まで。人が溢れ、連休は来ない方が良い
21（金）個＝ニッ塚　　後藤、加藤・・・長田小屋でオヤジと交流、カキ氷食べた
22（土）会＝狩野川本流 R・ウォーク　　加藤、井上、星、合谷、ほか 1・・・水が冷たかった
29（土）会＝富士山・獅子岩（リバー・ウも想定）　後藤、井上、合谷・・・猛暑中止
29（土）～30（日）個＝北ア・湯俣川　　加藤、星、植松（会員外）・・・篭渡しが怖かった
08/03（木）～05（土）個＝荒川三山～赤石岳　　北村、ほか 2・・・天気は良かった
05（土）個＝富士山・吉田口　　山田・・・ボッチ登山
04（金）～06 日（日）個＝八方尾根　後藤、加藤、合谷、星・・・花・人、凄い
12（土）個＝ニッ塚　　加藤、深沢、植松（外）・・・体力維持
13（日）個＝ニッ塚　　後藤・・・体力維持
19（土）会＝大谷ヶ丸・曲沢～西尾根　　後藤、加藤、山田敬、北村・・・厳しい山だった
09/30（土）～10/01（日）個＝全国ハイキング集会・奈良　　加藤、星、深沢, 植松（外）、木村（外）

２．寄贈会報とピックアップ

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　７月号　　NO.表記ナシ　　P8　　電子版
表紙＝富士山、山行予定＝蝶～常念、蓼科、鬼～雪頭ヶ岳、焼岳。
報告＝至仏山（新幹線で往復）、出羽三山、富士山頂。

「あさぎり」　あさぎり山の会　　８月号　　NO.358　　P40　　電子版
報告＝オーレン小屋テン泊、京ヶ倉、爺ヶ岳、北海道＝旭岳・富良野岳、大菩薩嶺、常念岳～蝶ヶ岳、薬師岳。本社ヶ丸・事故報告＝７８歳男性。右足で小枝を踏み、小枝でふくらはぎを切った。７針縫った。

「ハイキングだより」　みちぐさハイキングクラブ　８月号　NO.346　P8　電子版
越後駒清掃ハイキング・・・裏三山・折枝峠・小倉尾根・銀の道・現地本部に分かれて取り組んだ。今年で５１年。全２４名。コース・参加者が多く万全の態勢で取り組んだ。が、反省点もあった。ほか尾瀬一周など
ハイパーハイク・尾瀬一周１２時間行

「甲斐峰」　山梨山の会　　８月号　　NO.315　　P17　　電子版
座学「観天望気」、エッセイ「登山のきっかけは新型コロナ」、登山教室「御坂黒岳」、沢登り研修会、雀の学校「鳥井峠越え」記録＝笹山、宝永山、富士山、甲斐駒。
山行状況、山行予定、ほか。

静岡県連某会　　登山事故報告　 2023 年 7 月 25 日

・三ツ峠山北口登山口から御巣鷹山､本社ヶ丸､三ツ峠山登山口に戻る 7 時間 40 分周回コース
・事故発生日時　 2023 年 7 月 23 日 13 時 20 分
・事故者名　　男性　78 歳

・事故発生場所　 御坂山地 本社ヶ丸から三ツ峠北口登山口に降る尾根上にある鉄塔下。
・事故発生状況　 鉄塔下で休憩後、平坦な登山道を歩きだして直ぐ右足で小枝を踏み、跳ね上がった小枝の先がズボンの上から左足ふくらはぎ内側 23 ㎝部位に刺さり負傷する。鉄塔下から 30 分歩き 14 時駐車場に戻りました。
・応急処置　　パーティ仲間が皮膚切れて失血しているので消毒用カットガーゼを当て包帯で傷口を固定する。
・治療　　富士宮市緊急医療センター 23 日 16 時頃。傷口を消毒麻酔して 7 針縫う処置と痛め止めを服用。24 日外科病院で消毒して化膿止め服用しています｡27 日通院予定です。

事故現場。鉄塔下です。枝打ちされた杉の小枝が散乱していました。
小指程の太さの小枝ですが先端は切られて尖っています。
小枝を右足で踏んだので固定されて跳ね上がり先端が左足脹脛に強く当たる。
ズボンは切れませんでしたが柔らかい肉が切れました。

しくじり先生の一言
ハイキングでも、軽登山でも、岩登りでも、リスクは同様にあります。
一瞬の油断、判断ミス、ヒーマンエラーで事故が発生します。
浮石に乗る、木の根に乗ると滑って転倒して怪我をすると分かって、注意していると思いますがこのような事故も起きるのです。

崖、沢、ルンゼをトラバース時に、上にカモシカがいて石を落として落石事故となる事もあるでしょう。
今は、山には狼はいませんが熊はいます。
つづら折りの登山道を登り曲がった途端にクマと遭遇する可能性もゼロではありません。
山は一人で登るのが一番良いかもしれませんが、山での一番のリスクはソロ登山です、
病気で倒れても、崖から滑り落ちても誰も助けてはくれません。

人気の山でも 5m前を歩いている人が崖から落ちて突然消えても分からないでしょう。
ソロ登山は止めて仲間と楽しく登山を楽しみましょう。
注意、大勢で登ると山を痛めます。

以上

切り抜き帳

静岡新聞から転載

富士山頂往復 大会支え20年

マラニック　呼びかけ人の萩田さん（掛川）

掛川市各和の市民ランナー萩田博さん（75）の呼びかけで2003年に始まった富士山頂往復マラニックが、20回目の節目を迎えた。海抜0㍍の田子の浦港（富士市）から標高3776㍍の頂上を24時間以内に往復する大会。仲間15人で始まったイベントは600人以上が申し込むほどの規模になり「ゼロ富士」との愛称が定着した。萩田さんは「大会が育ち、全国にファンが増えた。頑張って続けていく」と感慨を深めている。

ゼロ富士　海抜0↑↓標高3776メートル

知名度 全国に

受け付けでエントリーする全国のランナー＝7月下旬、富士市の田子の浦港

萩田博さん

マラニックはマラソンとピクニックを組み合わせたスポーツ。ゼロ富士は新型コロナウイルス禍で登山ルートが全面閉鎖された20年を除き、毎年夏に開催してきた。23年大会は7月28、29の両日に開催し、600人を超す応募者の中から抽選で選んだ271人がエントリーした。全国から集まった参加者はそれぞれのペースで山頂を目指し、約3割が完走した。

ゼロ富士は富士山が世界文化遺産登録された13年に申込者が急増し、全国のランナーの間で認知度が高まった。同時に、風当たりも強くなった。初心者による「弾丸登山」が問題化した時期。萩田さんは「大会への中傷もあったが、安全管理の取り組みを徹底してきた自負がある。これまでに大きなアクシデントは一度もない」と話す。参加希望者に走力や登山の知識を〝問診〟し、出走を断った事例もあるという。

今夏は節目を記念して、山頂までの往復と山麓一周を組み合わせた「ゼロ富士プラス」、ゼロ富士プラスのコースに山頂までの4ルート制覇を加えた「ゼロ富士X－1（エックス・ワン）」を並行開催した。萩田さん自身は、09年の出走を最後に裏方に回り、運営に専念している。「富士山という最高のフィールドを全身で楽しめる。ひとり歩きを始めた大会をこれからも支えていく」と、呼びかけ人としての責任を果たしていく構えだ。

（掛川支局・高林和徳）

8/22

静岡市 新消防ヘリ導入へ

高山岳地帯 救助可能に

静岡市は16日までに、新しい消防ヘリを導入する方針を固めた。導入を検討する新機体は、高度3200㍍以上の高山岳地帯での救助活動が可能で、現行機で設けている救助活動時の高度制限がなくなる。関係者への取材で分かった。

関係者によると、現行機が稼働20年を迎える2026年3月までに新機への更新を検討している。導入検討中の機種は、高山岳地帯で少なくとも2人以上の救出、搬送が可能な性能を持つという。

購入費は30億円規模。市は財源について国の緊急防災・減災事業債を活用する考え。9月13日開会予定の市議会9月定例会に関連予算案を提出する方向で調整に入った。

市消防局が運用する消防ヘリを巡っては13年12月、県の要請を受けて出動した富士山頂付近（高度3469㍍）で、救助中の男性が落下し死亡する事故が発生した。市は現行機の性能を考慮した上で14年11月、事故前は設けていなかった救助活動の高度上限を設定して3200㍍とし、県などに伝えていた。

市内で最も標高が高い地点は南アルプス間ノ岳の3190㍍だが、市は県などとの間で相互応援協定を締結していて、締結先が運用するヘリが整備点検中の場合、要請を受けて出動する。3000㍍級の高山岳地帯で活動する可能性がある。

8/17

山遭難 地図アプリで発見

警察など照会200件 GPS活用 迅速救助

衛星利用測位システム（GPS）を使い、自分の位置情報を他人と共有できる地図アプリの利用が登山者の間で広がっている。遭難した場合、正確な居場所が特定できるため、警察などからアプリ運用会社に昨年200件の照会があったことが6日、分かった。救助につながった例もあり警察は「早期に発見できる」と評価。静岡など16府県警が協定を結んでいる。

アプリは、福岡市のIT企業「ヤマップ」が開発した。ダウンロードした地図上に、GPSで自分の現在地が表示される。携帯電話の電波がつながらない場所でも、登山者は位置情報を家族などと共有できる。

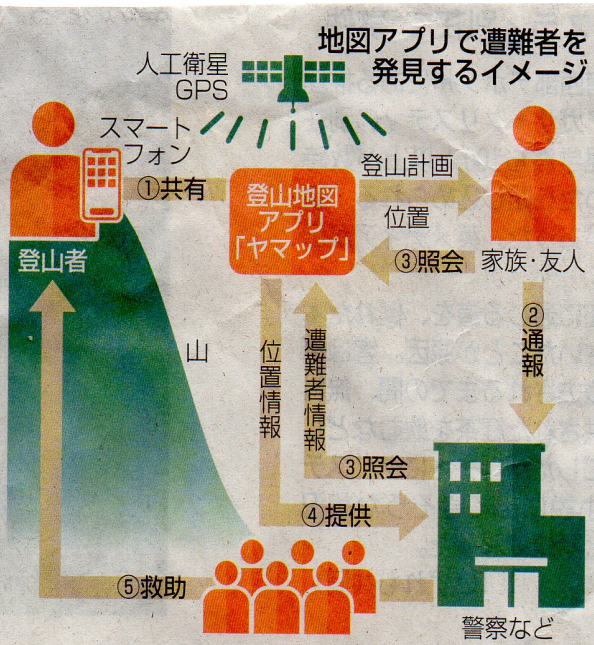
全国の警察や消防などから同社への照会件数は、2020年に46件、21年に89件、22年に200件と急増した。

遭難した可能性がある際、家族などから連絡を受けた警察や消防は、同社に遭難者がアプリを利用しているかどうかを照会。利用している場合、同社は遭難者がいる場所の緯度、経度の位置情報を捜索隊に直接伝える。

これまで登山者の情報は登山口の専用箱やメールで警察に提出された登山届でしか把握できず、捜索隊は遭難場所の特定に時間がかかっていた。アプリのダウンロード数は今年7月末時点で累計380万件。レジャー白書によると、21年の国内の登山人口は約440万人。相当数がアプリを利用している計算だ。

警察庁統計によると22年の山岳遭難は3015件。記録が残る1961年以降最多を更新している。岩手、宮城、長野、熊本など16の府県警は同社と協定を結んだ。アプリ上で正式な登山届が提出可能になり、警察が登山者の正確な情報を迅速に把握することができるようになった。宮城県警の原幸太郎本部長は「早期発見、救助につながる」と評価した。

ヤマップの千田英史PRマネジャーは「位置情報が分からないと救助に時間がかかってしまう。連携をより広げ、迅速な救助にアプリを活用してほしい」と話した。



電池切れ備え 紙の地図も

日本山岳・スポーツクライミング協会の小野寺斉専務理事の話　アプリは自分の位置を常に表示し、道迷いしやすい箇所も教えてくれる。ただ遭難防止の基本は、無理のない登山計画を立て、登山届を提出し、装備をきちんとそろえ、明るいうちに行動すること。電池切れの心配もあるため、紙の地図と併用しながら有効に使えば防げる事故も多いだろう。

等高線　NO.175

「回想、2000 回登山・5」

2023/08/25

1968 年末～69 年年始の甲斐駒・摩利支天壁後、NO.64・春山合宿は、初めて八ヶ岳に入り、各岩稜、壁を楽しんだ。残雪の八ヶ岳は、美しい山だった。

その後、NO.73・7 月末～8 月初めて北穂高岳・滝谷に入った。クラック尾根・第一尾根を上った。

NO.77・9 月は、前穂高岳・北尾根四峰正面新村ルートをやった。11 月は、やはり初めての北岳バットレスに入った。第四尾根～中央稜をやった。中央稜は感動的だった。結局、この年は、「岩に夢中・岩に傾倒」の年だった。

■

70 年末～71 年始は、NO.89・八ヶ岳大同心雲稜ルートだった。大同心は、強風でザイルが舞い上がった。その後、阿弥陀岳・北西稜フランケをやった。このルートは、過去、記録がなかった。記録は、山と渓谷 1 月に掲載された。

NO.103・春山合宿は、初めて屏風岩・東稜を上った。隣の雲稜ルートの墜落者を目撃してビビった。ピークハントは、初めて槍ヶ岳に上った。山頂が意外と狭くて驚いた。

1970/05　槍山頂（後ろ小川、横・村岡）

NO.111・7/10～12、南ア・黒桂河内（つづらごうち）に 4 名で入った。この沢は、ゴルジュが続く難しい沢だった。しかも、無謀にも全員登山靴だった。

結果、2 名が滑落し骨折を負った。1 名は腕、1 名は足首。沢は雨で増水し下れず、途中でビバーク。足首骨折は最悪だった。

翌日、何とか早川に到着し、対岸にいた方に救助依頼。救急車で身延の病院に搬送。本人は、これを契機に山を辞めた。若気の至りだった。

9 月は、単独で仙丈ヶ岳～塩見岳をやった。これは後の冬縦走の下見だった。

翌年、NO.125・1971/01/14～17、単独で乾徳山～黒金山に入った。一人ラッセルに苦労した。15 日、大ダオで道を誤りビバーク。翌日、国師ヶ岳は吹雪で中止し、不動小屋に下山した。

夜中に不動小屋の天井を見ると燃えていた。登山者は、寝静まって誰も気が付かなかった。ストーブの煙突から引火したようだ。皆を起こして、雪の積もった屋根に上って、杉皮の屋根を剥がして消火に努めた。

お陰で消化後、天井に穴が明き、星が見えた。不動小屋は、西沢渓谷入り口で茶店もやっていた。先代の主人に随分感謝され、遊びに行くと、必ず「草ダンゴ」を頂いた。その先代もなくなり、恩恵も消えた。

■

NO.141・08/14～19 で北鎌尾根～北穂～奥穂～岳沢をやった。暑かったが、何故か会の方針で「水を呑むな」の厳命で兎に角、飲水出来ない山だった。今から考えると、訳の分からない方針だった。

NO.144・10/22～26 で清水准一（現在芦安在住）と前穂高・四峰松高ルート～Ｄフェースをやった。Ｄフェースのトップは清水に任せた。後年、清水から「何故、自分でトップをやらんで、オレにやらした」とクレームがあった。岩場のトップは、調子が良い方が務める。それだけの事だった。（つづく）

1971/09　奥又白池。右は清水

写真報告　　7/29～30　　高瀬渓谷・墳湯丘と球状石灰石　　加藤・星・ほか１名

湯俣川

国天然記念物・球状石灰石

篭渡し

足湯

写真報告　7/29(土),30(日)　西臼塚～富士宮五合目サイクリング・トレ　標高差＝942m　　北村

ヒメシャジン（五合目）

クルマユリ（五合目）

アサギマダラ（四合目付近）

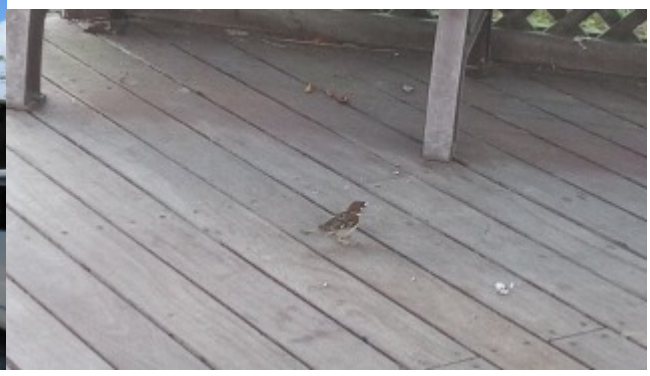
マイカー規制中の富士山スカイライン

夏空と富士山（西臼塚駐車場）

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行番.	NO.2029
日　時	2023 年 08 月 05 日（土）無風・快晴・上部涼しい
山　域	後立山・唐松岳（2696m）
コース	神城・水車小屋 4:30-黒菱駐車場-リフト-黒菱平 5:15-八方池ヒュッテ 5:42-第 3 ケルン-八方池 6:54-丸山 8:10-唐松山荘-唐松岳 9:30～50-唐松山荘（トイレ）-黒菱平 13:28--リフト-黒菱駐車場 13:43-倉下の湯-買い出し-水車小屋（泊）
標高差	上り　黒菱平約 1680m～唐松岳 2696m＝約 1016m＋90m
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
花も凄い、人も凄い山	
参加者	後藤、加藤、合谷、星＝4 名

四人は酷暑の静岡から脱出すべく白馬に向かった。白馬は、涼しいというが本当だろうか？？八ヶ岳 SA 外のベンチで昼食。小さな雀が寄って来た。慣れている。お結びの米を蒔いたら行ったり来たり、何回も突いていた。可愛い。

水車小屋



可愛い雀ちゃん（加藤撮影）

早朝、八方尾根・黒菱駐車場に向かう。別荘地を抜け標高差約８００ｍの林道を上る。昨日、係りの方が、早朝でも「牛がいるので注意して下さい」といった。（笑い）夏は、林道周辺は放牧地だった。駐車場は標高約１５００ｍ。駐車台数は約２００台。我々は、最後の２０台だった。下手をすると「駐車難民」になる。

林道を車で上るのは初めて。２０１６年５月下山時、悪天候でゴンドラが動かず、会社のジムニーで送って貰ったことがある。２日間、「ホワイト・アウト」で登頂すら出来なかった。

その時、下山も全くルートが分からず、一緒に下った他パーティーの GPS を頼りにした。それでも、「リング・ワンデリング」にハマる始末。

「ホワイト・アウト」の難しさを痛感した。富士山でも、二回苦労したことがあるが、

八方池山荘下

人間の能力は限界がある。その後、「ガーミン」を購入した。

駐車場から黒菱平までリフトで上り歩きだす。天気は良かった。花々が朝露に光っていた。登山者は多い。後から後から、ゾロゾロやってくる。

前を若い衆が数人歩いていた。聞けば「信大ワンダー・フォーゲル部」で、今日は「歩荷訓練」といった。以前、冬の仙丈ヶ岳・地蔵尾根で会ったといったら、それは山岳部でワンダーは、冬はやらないといった。彼らとは、山頂下でも再会した。

花の種類は多かった。７月中旬は、もっと多いという。全山で何種類あるだろうか。風下で積雪が多いからだろうか。特に尾根の南斜面の積雪で削られた斜面は、キレイなお花畑が広がっていた。

八方池は見事な池だった。夏来ることが殆どないので、新鮮な景色だった。皆さん、思

タテヤマウツボクサ

シモツケソウ

八方池

い思いの格好で休んでいた。観光登山は、ここまで。

タテヤマウツボクサは、極端に色が濃い。シモツケソウは全山に多い。丸山下は、南斜面の灌木帯を辿っていた。南斜面は一面のミヤマキンポウゲが見事だった。一か所、大きな雪渓が残っていた。多くの方が、そこで涼を取っていた。

丸山で休憩。岩に帽子を置いて休んだ。ところが、後で帽子を忘れたことに気が付いた。下山時にあるかどうか微妙だった。

やがて上部の岩稜に達した。ここも夏は南面を巻いていた。チシマキキョウを見て、乗っ越せば唐松山荘だった。唐松岳は数々の思い出があった。調べてみたら、随分上っていた。

１９９３年１２月	http://susono-reihou.babyblue.jp/752
	http://susono-reihou.babyblue.jp/753
２００１年１２月	http://susono-reihou.babyblue.jp/kiroku-7-45.html
２００４年冬	http://susono-reihou.babyblue.jp/000-6.pdf
２０１５年３月	http://susono-reihou.babyblue.jp/506.pdf
２０１５年春	http://susono-reihou.babyblue.jp/510.pdf
２０１６年春	http://susono-reihou.babyblue.jp/630.pdf
２０２０年冬	http://susono-reihou.babyblue.jp/000-40.pdf

唐松岳山頂

剱岳遠望

コマクサ

２０２０年１２月、超烈風の中、山頂下３６ｍで断念した。唐松岳の冬は、日本海から直接風が当たる「風の山」だ。

山頂に立った。風もなく快晴の山。２０名程休んでいた。南の遠くに槍が見えた。西には剱岳があった。山頂に座り簡単な食事。ただ、胃が「いかまって」食欲はなかった。暑さで胃が参った。Ｋに頂いた「黒酢とお茶」に救われた。

ところが、Ｋは「お腹が減った」といって、「ナットウをパクパク完食」した。えええ～、

唐松山荘

下山

この状況でナットウ？？信じられない。（とても「ナットウ～く」出来なかった。笑い）
　記念写真を撮ってもらい下山。唐松山荘でトイレ。３００－だった。やっぱり、下山は楽だった。
　しかし、依然として下から登山者が多い。Kが日傘を差していたら、パトロールのジイさんに畳むよう注意された。「理由」はいわなかった。しかし、この場合、一方的でなく

下りリフト　　リフトでソフト

教育的配慮で（特に子供など)、しっかり「理由」を告げるべきである。

丸山で忘れた帽子は、「岩の上で待っていてくれ」無事回収。大池は、何とかツアーの観光客、中国系の方が多かった。中国系は、着ているもので分かる。

八方池山荘から下りリフト利用で帰着。ジジ・ババの夏休み VOL. 1 は終わった。

追記

1．神城の宿は、クーラーが無かった。「夜、大丈夫かと」思ったが、しかし、夜は寒い位で杞憂だった。女子は掛蒲団を出したそうだ。涼しさが羨ましいね。

2．駐車料＝無料。リフト代＝黒菱平往復 1000－、八方池山荘～黒菱平（下り片道）＝500－

3．大池上で唐松山荘にボラで水７Ｌ上げるオバさまと交流。義務ではないが奇特な方です。

4．ＧＹはビア１本上げたが山頂で飲まなかった。大池上で休憩時、半分貰ったが少し酔った。

5．傘の件は、多分、狭い道ですれ違う時、危ないからだろうか？ほかに考えられない。

見たかったヤナギラン

カライトソウ

ホソバツメクサ

付録

八方尾根を下山中、唐松山荘に歩荷する若い衆に会った。荷物は３０ｋｇといった。誰からともなく、「歩荷は何故、腕を組んで上っている？」の質問があった。正確な理由は答えられなかったが、ま、「安定しているから」と答えた。そんな折、週刊「ヨモっと静岡」の新聞記事が目についた。

8/5 八方尾根

2023/4/81　東丹沢・大山

2021/10/07　那須連峰

社会

100キロ背負って配達

福島、群馬、栃木、新潟4県にまたがる尾瀬国立公園には、100㌔もの荷物を背負って山小屋にとどける「歩荷」という仕事をする人がいます。尾瀬にある希少な湿原を守るため、車道はつくれません。また、ヘリコプターはお金がかかるので、月2回ほどしかたのめません。今も人が荷物運びの主役なのです。

歩荷は登山シーズンの4～10月に食品などを配達します。今年は6人が働き、登山客がふえる6月からは週6回、一人で100㌔ずつ運びます。

ミズバショウが見ごろだった5月、石高徳人さん(35)に仕事を見せてもらいました。木でできた「背負子」に段ボール箱を10個以上重ねて積み、3キロメートル先まで運びました。転ばないようバランスを取るこつは、うでを組んで歩くことだそうです。大変な仕事ですが、石高さんは「山小屋からの『ありがとう』がほこりです」と話します。

ミズバショウが見ごろの湿原の道を歩く歩荷の石高徳人さん＝5月、尾瀬国立公園

8/12 週間「ヨモっと静岡」

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真　北村
山行番.	個人山行
日　時	2023 年 08 月 03 日（木）～08 月 05 日(土)
山　域	南アルプス・荒川三山～赤石岳
コース	8/3(木)　椹島ロッヂ(8:29)-千枚小屋 宿泊地(14:48) 8/4(金)　千枚小屋(5:08)-千枚岳 2880m(5:46)-悪沢岳 3140m(7:40)-荒川中岳 3183m(9:29)-荒川前岳 3068m(9:41)-荒川小屋(10:53)-小赤石岳 308m(12:57)-赤石岳 3120m(13:32)-赤石小屋 テント場(16:23) 8/5(土)　赤石小屋(4:34)-富士見平(4:55)-赤石小屋(6:39～8:14)-椹島ロッ(11:27)
標高差	上り・下り　累計＝3378m
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい

大自然とお花畑満喫の縦走

参加者	北村（単独）

昨年の夏に購入した登山雑誌(山と渓谷)の特集は「巨大山塊 南アルプス」。主たる山々が紹介される中、”ダイナミックな展望と南ア最大級のお花畑”と紹介されていたのは、荒川三山～赤石岳。ずっと行きたかった念願の山域を 2 泊 3 日で縦走してきた。

Ｇさんが見せてくれた過去の山行報告書、Ｋさんから教えていただいたコースを参考に椹島から反時計回りに縦走する周回ルートに決めた。

■一日目 8/3(木)　天候: 晴れ～夕方強い雨～夜は晴れ

AM6 時に自家用車で畑薙ダム臨時駐車場に到着、7 時 15 分発の椹島ロッヂ行 登山者送迎バスに乗車した。バスの乗車は山小屋宿泊が条件、何とか予約できた平日の千枚小屋とセットでバスに乗れた。バスは三分の一くらいは空席、途中で一時停止して運転手さんが「左に赤石岳が見えています」と教えてくれた。嬉しいサービスである。

椹島でストレッチをして登山開始。テント泊装備もあってザックは 21kg でのスタート、しばらくは背中寄りの重心に身体を慣らしながら歩いた。千枚小屋までの登山道は眺望の変化が少なく単調だったが、登山者の少ない静かな森はとても心地く感じた。

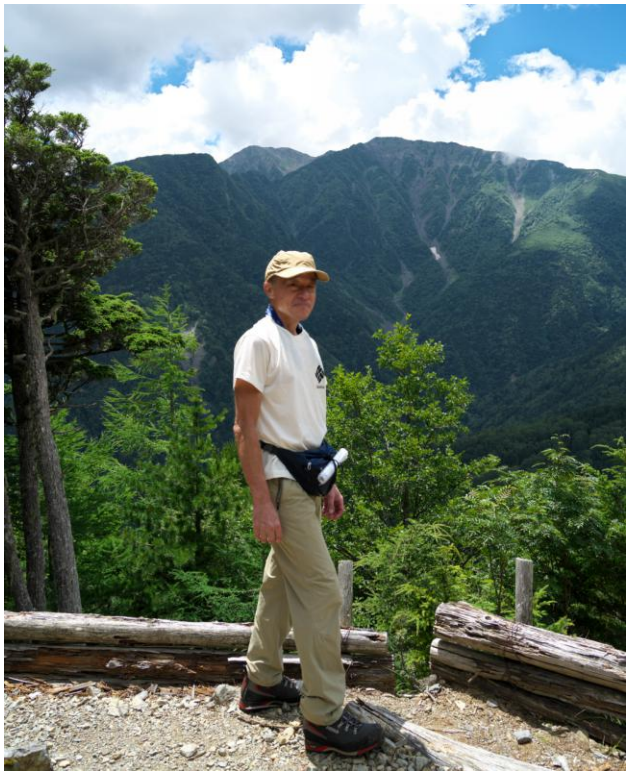
出発前　椹島ロッヂにて

登山道にて　イワカガミの葉っぱ

途中、荒川岳～赤石岳が見渡せる「見晴らし所」で昼食を取った。明日、この稜線を歩けると思うとワクワクした。後半は足に疲れが出始めたが、すれ違いの人の「お花最高ですよ～」の声掛けに元気をもらいながら、千枚小屋には予定通り 15 時前に到着した。

夕飯は 17 時、穏やかな天気の中、外でゆっくりしていたら、雷が鳴り始めバケツを返したような夕立になった。予報も夕方雨マークだった、計画通りの行動で濡れずに済んだ。

山小屋では、偶然 YAMAP で交流している人に会って話が弾んだり、隣の寝床の人と山の雑談をしたりと楽しい時間を過ごした。夜になり少し星が見えてきた。消灯は 20 時、朝の景色に期待して目をつぶったら、すぐに寝落ちした。



見晴らし所にて
奥に見える山は赤石岳

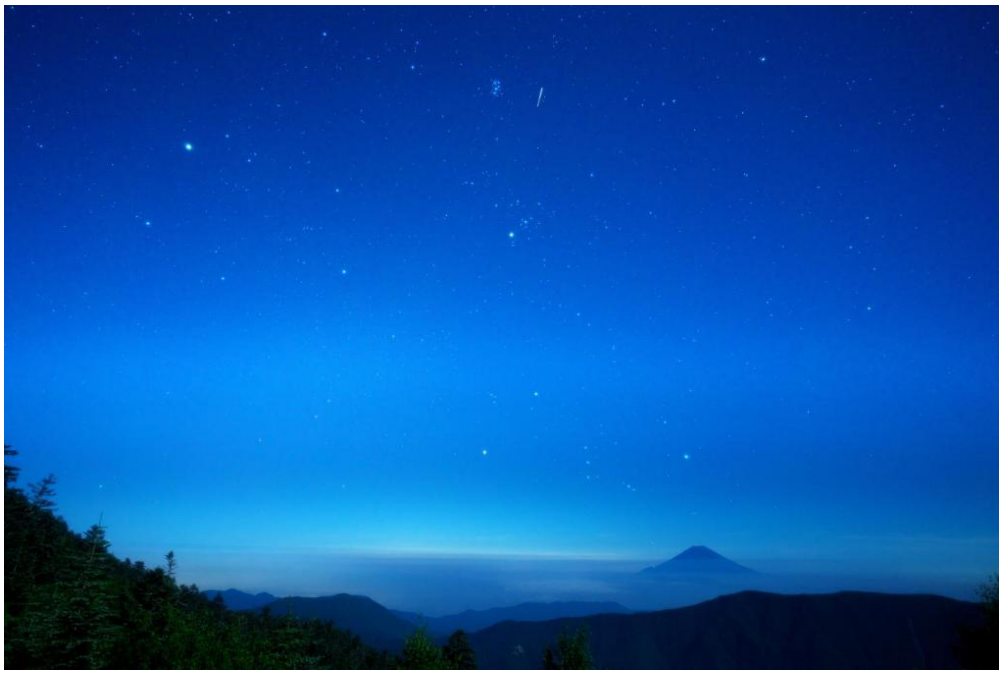
赤石岳が見えた!

雷の後に激しい雨

千枚小屋にて　アサギマダラ

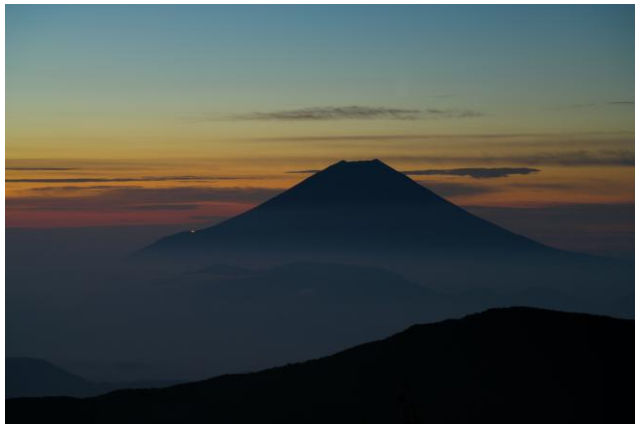
■二日目 8/4(金) 天候: 快晴～曇り～夕方に小雨～曇り

熟睡してすっきり目覚めた時刻は午前 3 時。音をたてないよう注意して外に出てみると、満点の星空にくっきりと富士山のシルエットが見えた。就寝前に準備しておいた三脚とカメラを持ち出して、星空～日の出まで、趣味の写真撮影を楽しんだ。



富士山とオリオン座、おうし座(am3:18)

マジックアワー(am4:08)



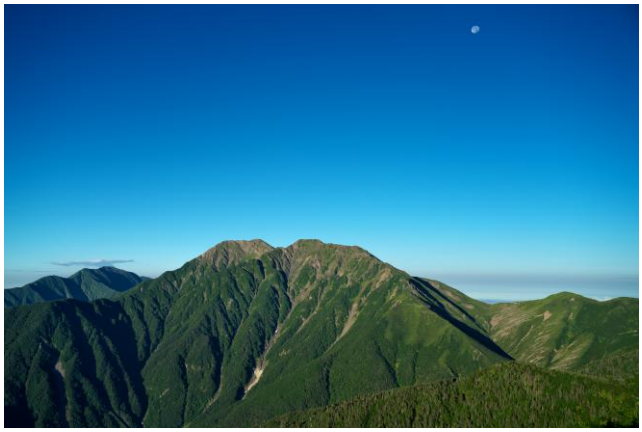
富士山 (望遠)

ご来光を待つ登山者達(部屋の窓から)

ご来光(am4:54)

二日目も夕方は雨の予報だったので、早朝に登山をスタートした。振り返ると富士山、少し歩くと赤石岳が見えた。森林限界に出て早々にタカネビランジを見つけた。Ｇさんから聞いていた通りの可憐な花だった。千枚岳に到着。どこにも人工物が見えない大自然の景色に引き込まれた。

お世話になった千枚小屋を出発(am5:08)



赤石岳と小赤石岳くっきり

タカネビランジ見つけた！

絶景一人占め

千枚岳山頂に到着　標高 2880m

千枚岳から先は、すれ違いの方が教えてくれた通りの花園だった。中でも、ゴージャスなマツムシソウ、白と薄ピンクのタカネビランジは目を惹いた。興奮して転倒しないよう気を引き締めつつ、花園歩きを楽しんだ。しばらく歩くと登山道をライチョウ親子が降りて来た。おどかさないようそっと写真撮影、子供が３羽並んだ姿が可愛らしかった。

悪沢岳が近づくと、大きな岩がゴロゴロした荒地になった。方向指示マークを見落とすと、危ない方角(ガケ)に行ってしまう。注意して慎重に進み悪沢岳に到着した。

山頂からは塩見岳、中央アルプスが良く見えた。千枚小屋から同じペースで歩いてきた登山者が到着してお互いに写真を撮り合った。二日目のすれ違いは、ここまで僅か１組、本当に静かで気持ち良い。ここの山は人が増えないことを願いたい。

マツムシソウの青が鮮やか

白と薄ピンクのタカネビランジ

大きな岩の後方は赤石岳

花の登山道

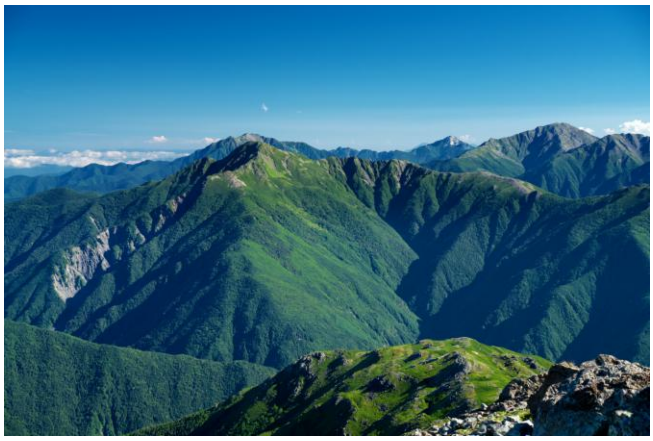
垂直の岩壁にもたくさんの花

ライチョウの子供達　可愛い

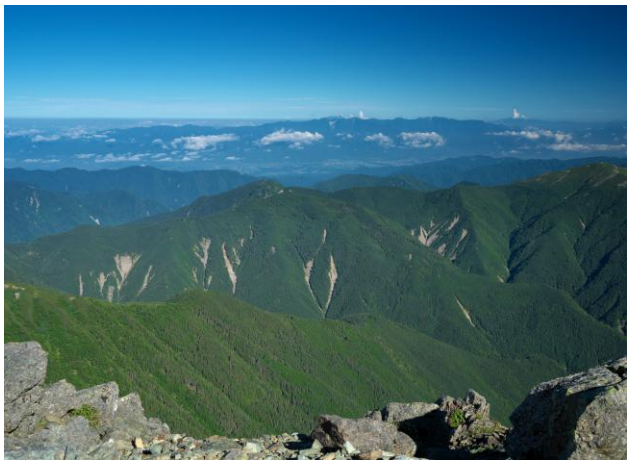
丸山　標高 3032m

悪沢岳（荒川東岳）山頂手前

悪沢岳に到着　3141m（標高第六位）



塩見岳と南アルプスの山々
後方は仙丈ケ岳、甲斐駒ヶ岳、間ノ岳

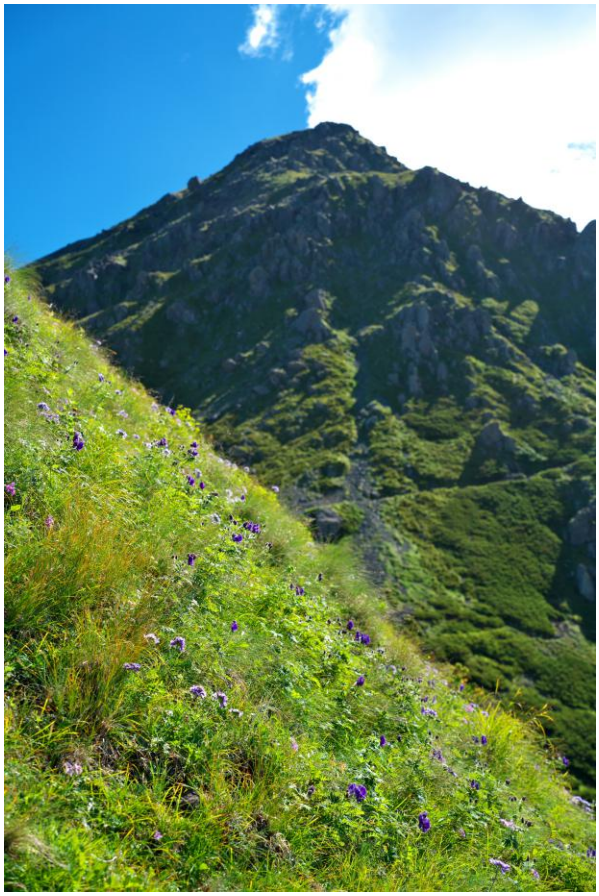


中央アルプスの後に御嶽山が見える

悪沢岳からコルへの下りは急斜面のガレた道。転倒はもちろん、小石一つこぼさないよう一歩ずつ神経を使って下った。無事通過して振り返ると、トリカブトの群生と悪沢岳が並んでいた。見た目は綺麗だが毒と悪・・・クセある組み合わせだ(笑)

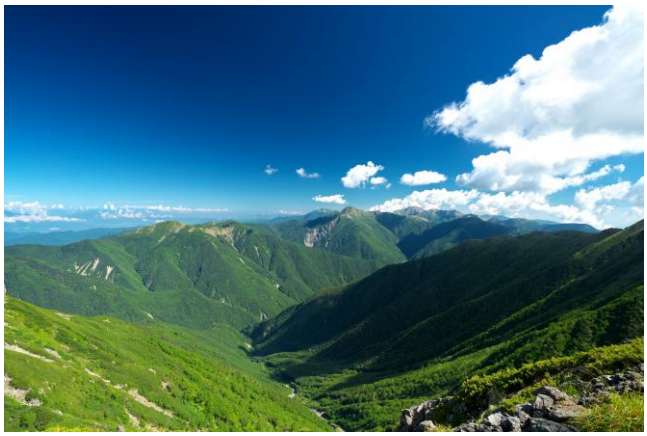
荒川中岳、荒川前岳を通過、広いお花畑を通って荒川小屋に到着し昼食にした。
荒川小屋では旅の記念に「悪沢岳」Ｔシャツを購入、登山で使えるポリエステル 100%で 2,500 円はリーズナブル、次回の南アルプス山行で着ようか。

悪沢岳からコルへの急峻な下り坂
下が見えない、一歩ずつ慎重に下った。



トリカブトと悪沢岳
下った斜面は下から見ても急だった。

気分爽快　花園ロード（坂の上に薄っすら荒川避難小屋が見える）



塩見岳方面　　なだらかな地形も美しい

荒川中岳　標高 3083m

後方に見えるのは小赤石岳

荒川前岳　標高 3068m

広々したお花畑を通過

小赤石岳・赤石岳の大きな山体と荒川小屋(右下)

荒川小屋から先の明るく開放的な登山道は最高だった。その先、岩峰の急登からはガスの切れ間に聖岳も見えた。予約が取れず行けなかった聖岳、来年は行きたい。小赤石の肩(3030m)あたりからは、ガスで視界がわるくなったが雨には降られずに済んだ。

稜線で千枚小屋で隣だったソロの男性とすれ違う。天候を考慮してルートを短縮(聖岳を中止)、今日は自分と同じ赤石小屋のテン泊と聞き、テン場で合流して一緒に食事(自炊)することにした。計画最後の登頂となる赤石岳もガスがかかっていたが、雲が割れて わずかな時間 稜線が見える景色も高山らしい素敵な眺めだった。沢で夕飯の水を汲みながら赤石小屋に下山した。

一緒に夕飯した男性は百名山完登を目指し残り 5 山になったとの事。景色や写真を楽しむ自分とは目的が異なるが、山が好きは所は一緒、会話が弾んだ。午後 8 時、この日もテントで目をつぶったら直ぐに寝落ちした。

開放的で広々した登山道を進む

斜面の先に聖岳と兎岳が見えた

青空を見ると元気が出る

雲に包まれそうな小赤石岳

赤石岳登頂　3120m

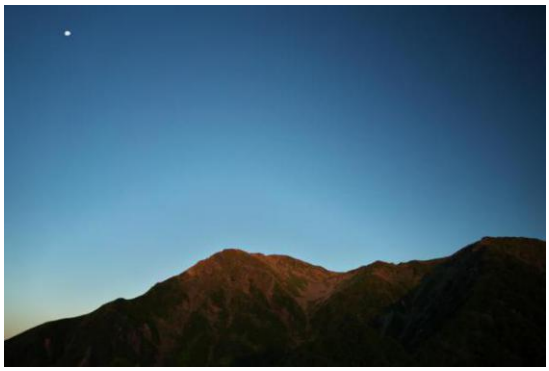
赤石小屋への下りも花がたくさん

■三日目 8/5(土)　天候:晴れ

目が覚めて外を見たら、お月様くっきり、足の疲れも取れていたので、飛び起きてカメラと必須登山装備だけアタックザックに詰めて、眺望の良い富士見平に向かった。

到着して目に飛び込んできた景色は雲海に浮かぶ富士山。前日歩いた千枚岳～荒川三山～赤石岳もくっきり。日が昇り雲海がオレンジ色に染まると言葉にならない絶景に。すばらしい朝だった。しばし、朝の景色を楽しみ、小屋に戻ってゆっくり朝食、テントを畳んで名残惜しいが下山した。最後は足に疲労が蓄積したのか膝の踏ん張りが利かず失速したが、計画時刻には下山できた。装備の軽量化は今後の課題と認識した。

三日間トラブル無く、すべて計画通りに感動続きの山行を終える事ができた。良い山旅だった。



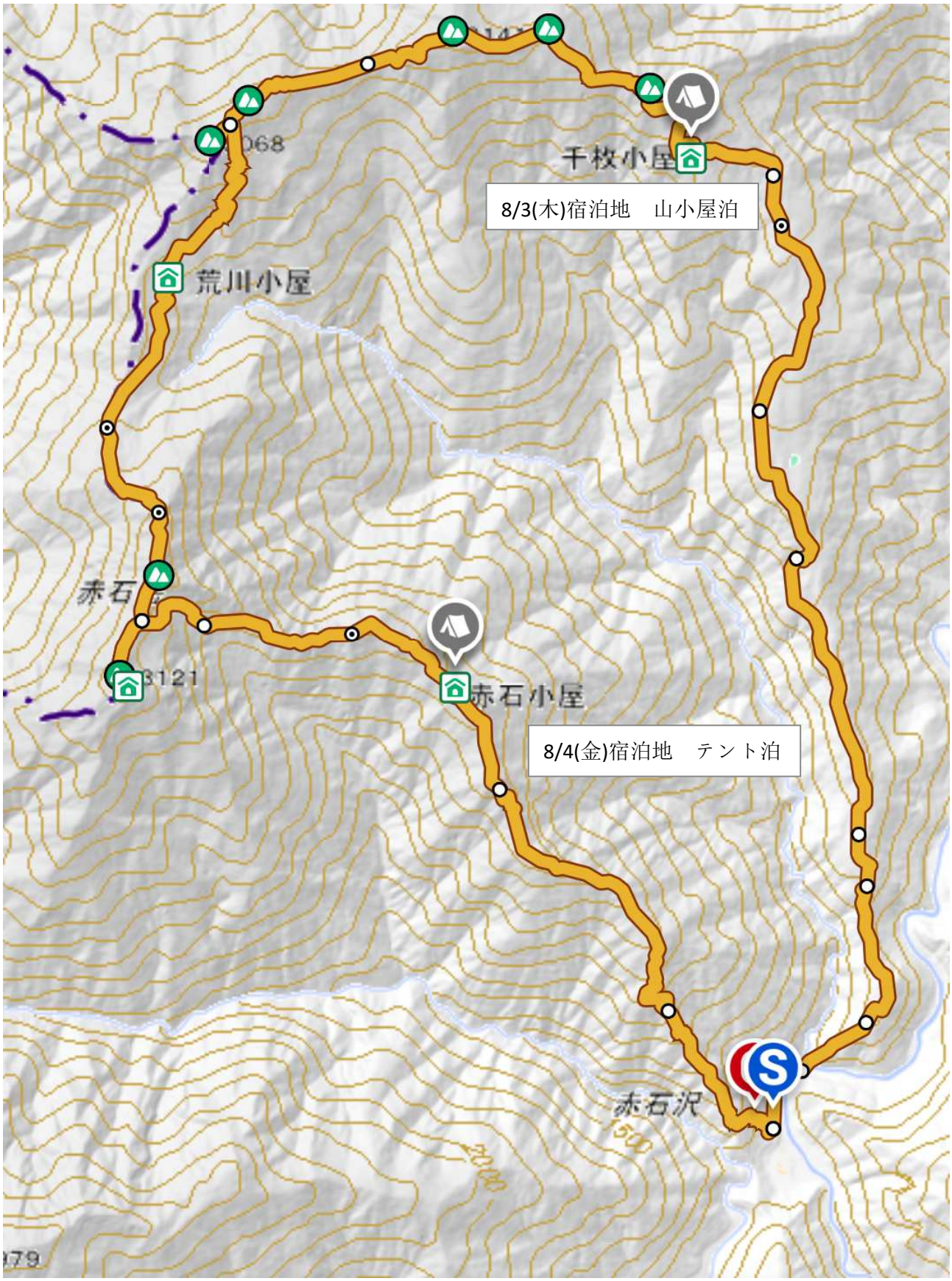
赤石岳 am5:02

ゴールドに染まった雲海　am5:05

富士山(望遠)

悪沢岳をバックに悪沢Tシャツでスナップ

参考　ルート地図



長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　写真・後藤、北村
山行番.	NO.2031
日　時	2023 年 08 月 19 日(土)晴～雨・雷～晴
山　域	小金沢連峰・大谷ヶ丸（1644m）曲り沢～北峰～西尾根
コース	長泉町 6:00－景徳院 7：56（H＝約 720m）－曲沢入渓点（H＝約 1000m）8：50 －昼食 12:00－沢から尾根着 13:00－大谷ヶ丸 13：49－北峰 14:06－西尾根－景徳院 17：05－砥草（とくさ）庵（食事）－長泉町 21:32
標高差	上・下り　景徳院約 720m～大谷ヶ丸 1644m＝約 924m＋西尾根上り分
難易度	非常に困難　困難　**レやや困難（西尾根）**　普通　やや易しい　易しい
猛暑の沢登りと雷雨のバリエーション	
参加者	後藤、加藤、北村、山田（4 名）

今回の山行は大谷ヶ丸。昨年 12 月に行っているので 2 回目。しかし、今回は沢登りがある。ルートも前回と違うところから入山する。

私は沢登りがはじめて。沢靴は持っていたが、使ったことがない。沢登りとは、沢を沢靴で登って、帰りは沢脇の道をそのまま帰って来る。そんな水遊びの延長のイメージだった。しかし、準備物の確認をしていると、登山靴も必要であることがわかる。

景徳院駐車場

景徳院

確かに昨年行った大谷ヶ丸はそんなにやさしい山ではなかった。登山の装備と沢登りの装備が必要なのか、、、これはタイヘン！行き帰りのイメージがつかないまま当日を迎えた。

入山地点の景徳院についたのは朝 8 時ごろ。G さんから「今日は地図読みを勉強します」という今日の課題が出され、アプリを使わずに 2 万 5 千分の 1 の地図を見ながら曲り沢の入り口を探す。

地図、コンパス、高度計で現在地を把握して、ルートを外さずに目的地に行くというは登山の基本。そんな学習機会を作ってもらえるだけでもありがたい。1 時間ほど歩いたところで、曲沢の入渓点に到着。沢靴に履き替える。そして沢に入る。

最初のナメ

冷たーい！が、思ったほどではない。外が暑いので、むしろ気持ちいい。沢靴も靴底がフェルトの生地で大丈夫かと思ったが、全然滑らない。これなら安心して動ける。

K さんから沢の服装はツルツルした生地のものがいいし、長袖、長ズボンがいいと教えてもらったが、実際に沢に入ってよくわかった。

今回の曲り沢は沢の初級中の初級らしいが、沢登りは水流に逆らって進むので、水量が多いところだと水圧が強い。岩場を登るのに力が必要だし、水の抵抗が少ない方が登りやすい。そして、必死に進むので、気づけば肘や膝にアザがあるという状態だった。

行きに「カエル」に会う

地図を読む

じゃぶじゃぶ（撮影・北村）

普段は「沢に落ちないように」「水に濡れないように」と思っているのに、沢登りとなると、「水に濡れにいく」「沢の深いところにあえて突っ込む」ので、日頃のいろんな制約から開放されたようで、楽しい。水が流れる轟音の中なので、「わー」とか「おー」と叫んでも、かき消される。ストレス発散にはもってこいだ。

沢の途中で、後から来た男性の二人組が追いついてきた。一人の人は沢靴の上にワラジを履いている。珍しいので、話しかけたら、ワラジをはくことで滑りにくくなるそうだ。

どこで買ったんですかと聞いたら、お祭り道具などを扱っているネットサイトで購入したとのことだった。

ワラジのオヤジ

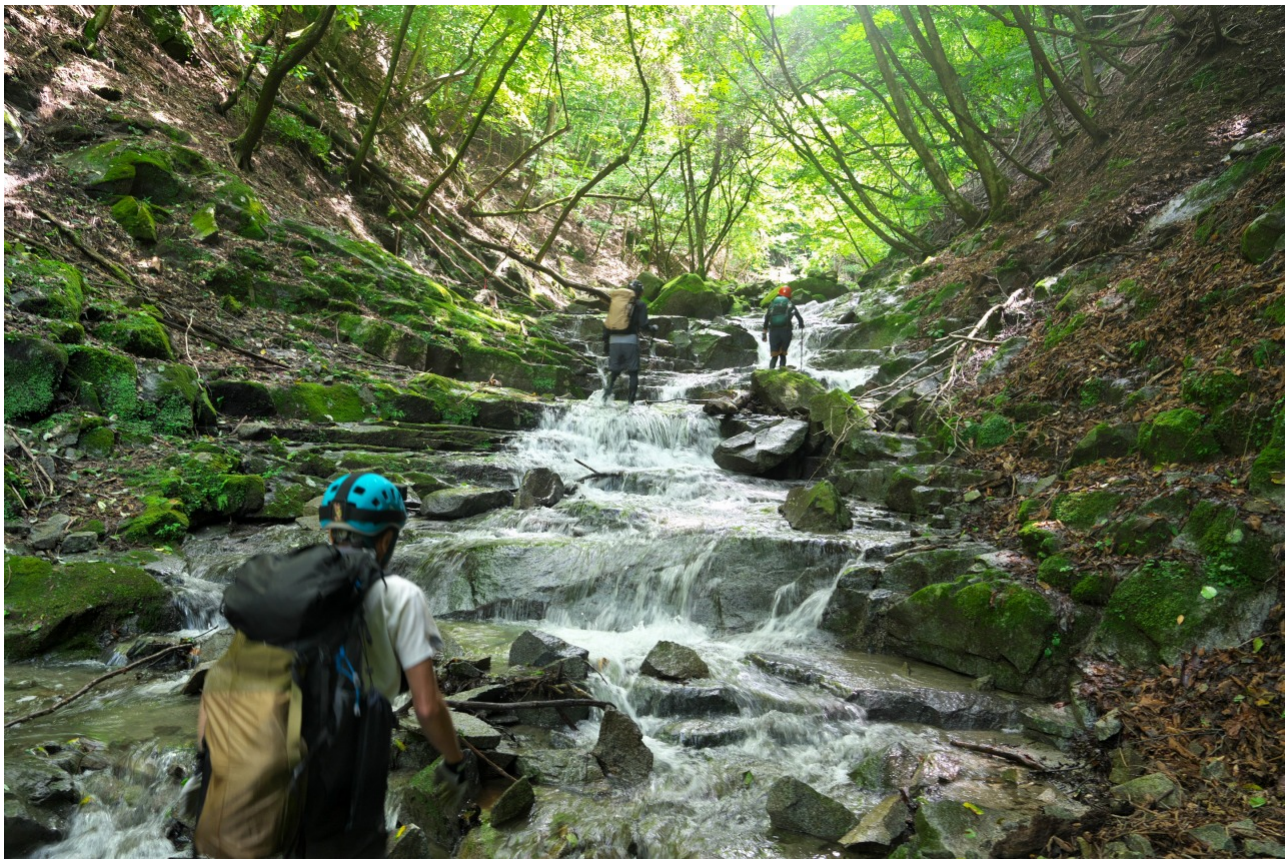
丸木渡り

フェルト底の沢靴も、使っているうちにだんだんすべりやすくなるそうなので、それを補強するにもワラジはいいのだろう。

楽しくて沢の上流に向かって夢中になって歩いていたが、時折、時間と現在地を確かめると、体感の疲れほど、前に進んでいない。標高もかせげていない。結局、沢を抜け出せないまま、沢の上流で 12 時になる。

お腹が空いたので、ここで昼食をとる。約 4 時間行動しても山頂に到達しないというのは、日帰りだと珍しい。30 分ほどで昼休憩を切り上げて、沢から尾根に出る行程を進む。

やっと尾根が見えた。しかし最後に尾根にあがるところが急登でかなりきつい。ハアハア言って踏ん張ってなんとか尾根にあがり、休憩。ここで沢のウェアから山のウェアに着替える。



濡れた沢靴やウェアをザックに入れるが、水を吸っているのでザックは重い。地図を見ると尾根から大谷ヶ丸までまだ 200 メートルほど登らないといけない。

しかも、着替えている途中から雷が鳴り出す。沢登りの時は、いい天気だったのに。雨が降ってくるから先を急ごうと力を振り絞って、山頂をめざす。

13 時 49 分、大谷ヶ丸登頂。雷がどんどん大きくなってきているので、登頂やったー！もなく、地図とコンパスで次の北峰を探す。アプリは原則禁止。

地図上では、北に向かって一旦下って登り、登りきったところが北峰になっている。しかし、めざす方向に歩いているといくつかのアップダウンがあり、北峰がここだと確信が持てない。地図上だと大谷ヶ丸と北峰はすぐ近くにあるように見えたが結局、15 分くらい歩いて北峰到着。

詰め

大谷ヶ丸山頂

G さんから、こういうところの地図の読み方や距離感覚などを身につけてほしいと言われた。一回ごとの山行を大事にして経験から学ぶしかない。

北峰についたら、バリエーションで西尾根を渡って帰る。しかし、ここでいよいよ雨が降り出す。沢で濡れているので、体が濡れることに抵抗感はないが、地図読みがしづらくなった。GPS も使いながら尾根を間違えないように、下る。

この山は足元がゆるくて滑りやすい。そのためにストックも持ってきていたが、雨も降ってきたのでより慎重に下る。足の踏ん張りが効かないところで、ストックを使って、ブレーキをかけていたが、途中、バキッと折れてしまった。カーボン製のものだった。

沢登りもあるので軽い方がいいと思って、選択したが、失敗した。「カーボンは軽いけど弱いからダメ」と言われた。これも経験を通しての学びだった。

尾根を下るだけかと思っていたら、思った以上にアップダウンがある。雨は降り続いているし、時間も遅いので、帰路を急ぐ。しかし、体感的にかなり進んだ感覚はあっても、現在地を確認するとそんなに進んでいない。そんな繰り返しだった。

「沢は思った以上に体力を使う」と K さんに言われたので、それもあったかもしれない。

後で自分の YAMAP の記録を見ても、走行距離は 11 キロくらいで、いつもより長く歩いたわけではない。

しかし、下山は長く疲れた。景徳院に戻ってきたのが、薄暗くなった 17 時５分。雨に濡れて泥だらけのウェアを着替えて、腹ペコだったので近くの砥草（とくさ）庵で食事。

私の誕生日が８月 18 日だったので、今回は私の誕生日お祝い山行だと言っていただいた。物でもらうプレゼントより思い出に残るインパクトのある体験だった。

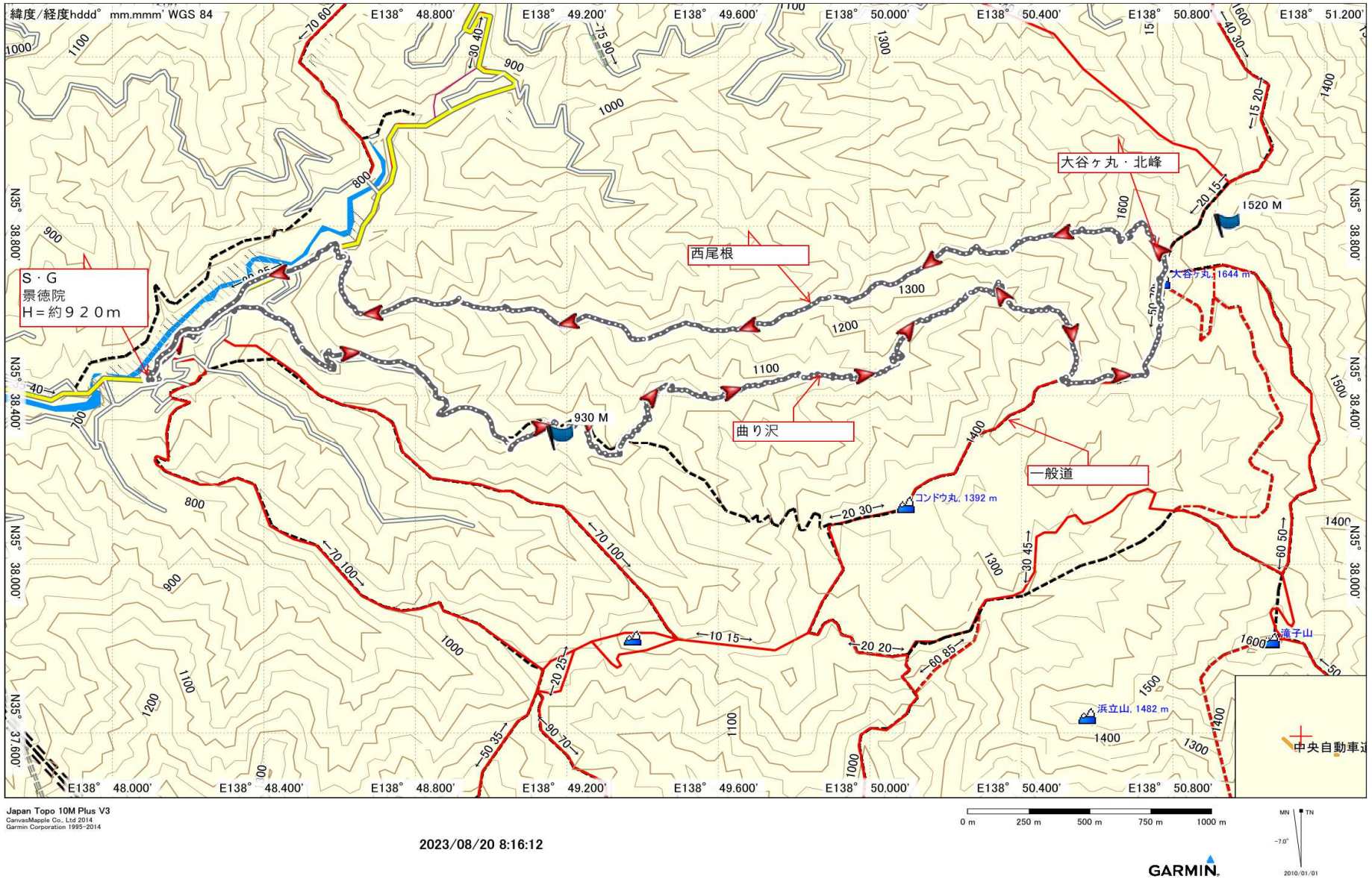
その他の記述（後藤）

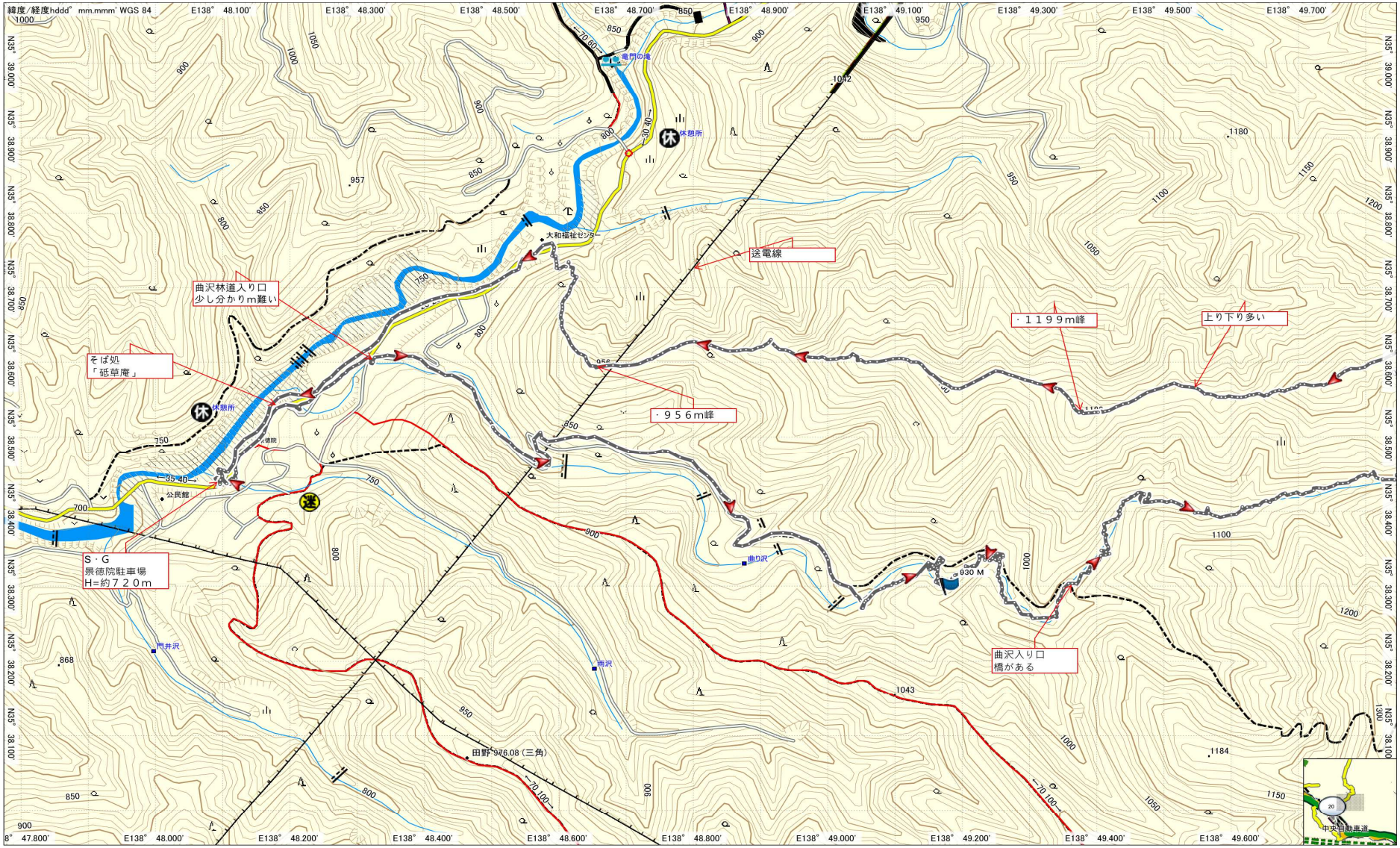
１．曲り沢は、標高約 1270m で終わり、左岸の支流を上り、標高約 1450m の一般登山道に出る。この道は、私が昨年末事故を起こした登山道。事故は、コンドウ丸上の標高約 1400m。事故現場検証をしたかったが出来なかった。

２．大谷ヶ丸北峰は、地図上では近距離感覚だが、実際は、かなり離れている。地図読みは、地図と実際の距離感覚違いを掴むのがポイントである。北峰には手製の標識が二ッあった。

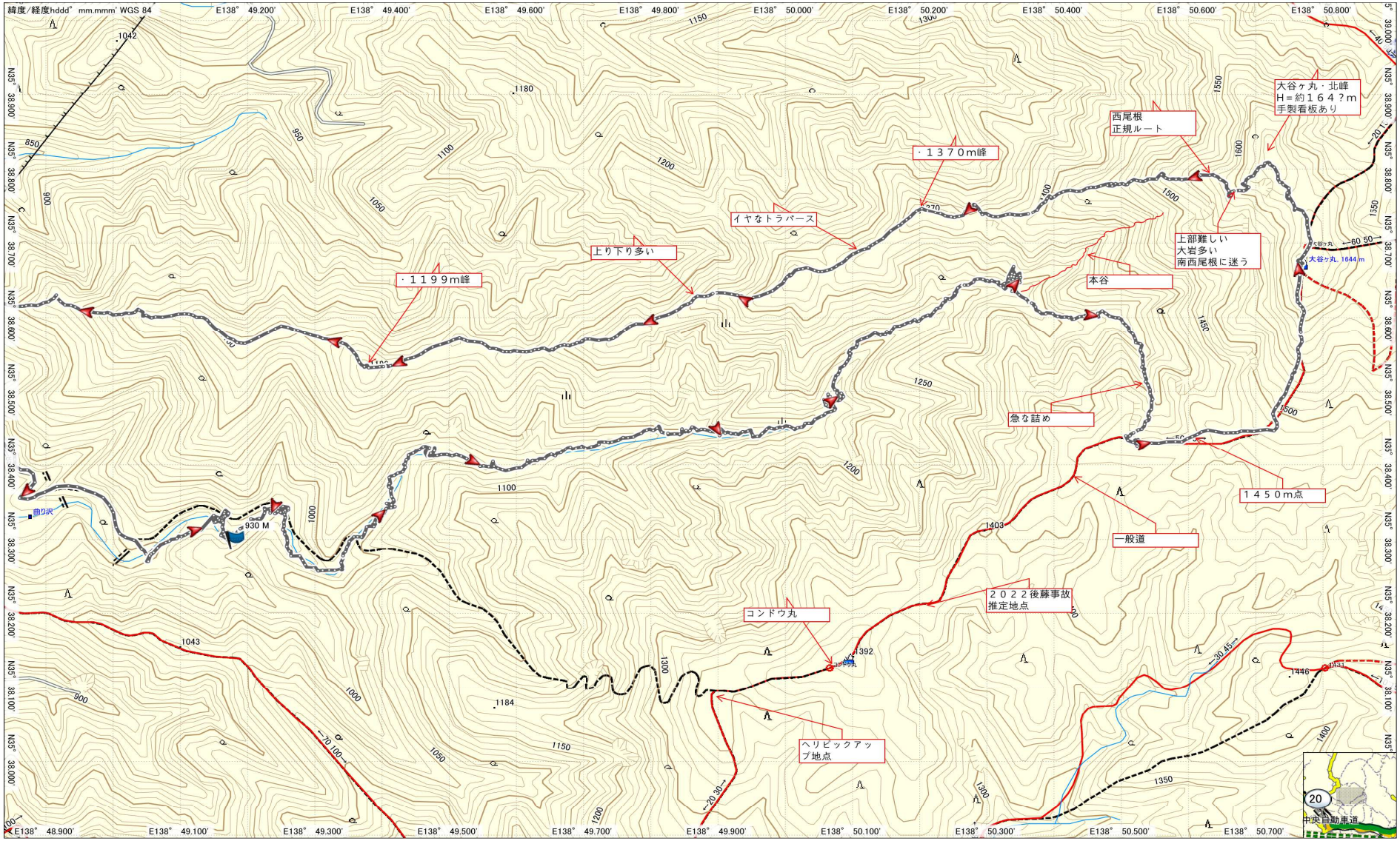
３．西尾根の上部は急で大岩が点在する。直下で南西尾根に下り過ぎた。すぐ気が付き、北の正規尾根に修正した。雨・雷・暗雲で厳しかったが、全員でやり遂げたのは、大きな成果だった。

４．温泉は未入で残念だったが、ソバ処「砥草庵」は、主人がソフトな方で店もステキだった。


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
S・G
景徳院
H＝約９２０m
西尾根
曲り沢
一般道
大谷ヶ丸・北峰
930 M
1520 M
大谷ヶ丸, 1644 m
コンドウ丸, 1392 m
浜立山, 1482 m
滝子山
中央自動車道
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2023/08/20 8:16:12
0 m
250 m
500 m
750 m
1000 m
GARMIN



緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
曲沢林道入り口
少し分かりm難い
そば処
「砥草庵」
S・G
景徳院駐車場
H=約７２０m
送電線
・１１９９m峰
上り下り多い
・９５６m峰
曲沢入り口
橋がある
竜門の滝
休憩所
大和福祉センター
公民館
曲り沢
門井沢
雨沢
田野 976.08 (三角)
930 M
中央自動車道
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2023/08/20 8:16:12
GARMIN


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
大谷ヶ丸・北峰
H＝約１６４？m
手製看板あり
西尾根
正規ルート
・１３７０m峰
イヤなトラバース
上り下り多い
・１１９９m峰
上部難しい
大岩多い
南西尾根に迷う
本谷
急な詰め
１４５０m点
一般道
２０２２後藤事故
推定地点
コンドウ丸
ヘリピックアップ地点
曲り沢
930 M
大谷ヶ丸, 1644 m
中央自動車道
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2023/08/20 8:16:12
GARMIN.

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
長泉裾野・麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
2023/08/25
第 29 期・06 巻　　2023/9 月号　　NO.265
連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12 徳山荘
090-8956-9990　　055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
Mail　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

イタドリ　　8/13　　富士山・二ッ塚